

Pal

～仲間


2017
Winter Edition
Vol.96

大和フレスクール にほんごひろば



大和市教育局とNPO法人日本ペルー共生協会が行う協働事業、「大和フレスクールにほんごひろば」が11月からスタートしました。この事業は、小学校入学を控える未就学児のための日本語教室で、来年3月までの間に全50回、週3回開催されます。

今回参加した外国につながる子どもたちは、皆、幼稚園や保育園に通っていない在宅の子どもでした。この教室で生活に必要な簡単な日本語や学校生活で役立つ集団行動のルールを学び、4月から始まる新しい学校生活に備えます。

国際化協会はこの事業に協力して、元保育士でつくるグループ「子育てパートナーで」として講師を依頼し7回の授業を実施しました。絵カードや工作、手遊び歌など、様々なアクティビティを通して子どもたちは楽しく日本語を学んでいました。



Contents

外国人市民の「居場所」を作る。.....	2～3
Hello Everybody! ～外国人市民インタビュー	4
行ってみたいあの店この店【Buen Gusto(ブエン グスト)】.....	5
こんな事業を開催しました	6
地域の国際交流イベント案内	7
公益財団法人 大和国際化協会からのお知らせ	8

外国人市民の 「居場所」 を作る。

2018年4月に、国際化協会は、旧生涯学習センターの跡地に残る、旧生涯学習センター北館に移転します。

そこで、私たちの事務所の他に、小さな交流スペースを持ちます。

外国につながりを持つ人達が、安心してくつろげて、力をつけることができるスペース(=「居場所」)にしていきたいと思っています。

「居場所」とは、どんな機能を備えている必要があるのでしょうか？

居場所を必要としている人たちだけでなく、たくさんの方に見守り関わって頂ける場所にしていくために、大和の「居場所」に、居場所づくりのコツを教えてくださいました。

質問

ソコを「居場所」にするために、大切なことはなんですか？

こころ

みんなのスペースわにわに(伊知地 るみさん)

「生活の中にあること」

自分は風邪をひいて具合がわるいけど、元気な子どもは外に出られなくてぐずってる。そんな時に、パジャマの上にコート引っ掛けてでも、あそこに行けばなんとかなる、そんな場所が必要だと思っています。

親子でおしゃれして、遊びに行ける場所もたまには良いし、そうやって楽しみを見つけながら子育てしていけるお母さんたちがほとんどだけれど、保育園の一月に1回の園開放に来てくれるお母さんたちを見ると、もう少しつながって、お手伝いしたいなという相手もいる。そういった時に「ここに来てみない」って誘える受け皿が必要だとずっと思っていて。

ここでは、大和市こども食堂支援事業を利用して、一月に1回、子どもが一人でも来られる子ども食堂「わにわに食堂」をやっているんだけど、沢山の人が来てくれる。いつも保育園から、慌てて家に帰って、急いでご飯の準備をしてって、時間に追いかけるけれど、この日だけは、できた時間を使って「絵本を読んでもあげる日」になった、って話を聞かせてもらって、そういうのが良いな、って。

食堂の日は、おにぎり屋さんをやっていて、子どもたちが自分で自分のおにぎりを作れるの。お母さんが忙しい時、お兄ちゃん



▲左から2人目が伊知地さん。スペースのスタッフと。

やお姉ちゃんが、おにぎり握って、自分や弟、妹たちに食べさせてあげるぐらいになればいいなと思って。「親子のひろば」でもそうだけれど、だんだん居心地が良くなってくると、周りが見えて来て、教えてもらったことを、他の人にもしてあげられるようになってくる。「地域」の人が育つ場にもなっているんだよね。

一緒にご飯を食べるって、ぐっと距離感が縮まるから、そのスペースで、お昼ごはんを食べられるようにするだけでも良いんじゃないかなあ。



居場所のプロフィール

さくらの森保育園、さくらのつばみ保育園を手がけるNPO法人さくらの森・親子サポートネットが、「みんなで子どもを育て合う場所」として文ヶ岡小学校のそばにあるマンションの1室に開いたスペース。

「親子のひろば」

未就学の子どもと、お母さんお父さんなど保護者の方のひろば。2名のスタッフがいて、子育ての悩みを相談し合ったり、支援の情報を手にしたりすることができます。

【開催日】月・水・金の午前10時〜午後2時
【年間登録料】1家庭300円、1回の利用料は200円
【住所】大和市上草柳176-4
ヴェルドミール102号室
【問い合わせ】さくらの森保育園
電話 046-259-5206

こたえ

大和カトリック教会(アネタ プォネツカさん)

「自分の文化を大切にできる場所であること」

一番多いのはベトナム人、そしてフィリピン人、ブラジル人、ペルー人。スリランカやタンザニア、ドミニカの人たちも来ています。自分たちの言葉で話して、ちょっと自分たちの料理やお菓子を作って分け合える。仲間が集ってくる場所だから、教会が、外国人の居場所になっていると思います。自分も、東京の教会で開かれるポーランド語のミサに参加しています。それぞれの国に、いろいろな宗教行事があって、ここではそれを大切にすることもできます。それぞれのコミュニティが、「大和教会は私の教会です」と誇りに思っていて、こういう教会はほかにはあまりありません。

日本に来る前にアルゼンチンの教会でお世話をしていたので、この教会では、土曜学校・日曜学校で子どもたち、若者たちに教えたり、スペイン語圏の信者のお世話をしたりしています。

彼らのそばで話を聞いていると、彼らが抱えている問題が本当によく見えてきます。お金を出してあげることはできないけれど、心を差し出す事はできます。通っていないくても、困ってる時には助けてくれる場所であることをみんなが知っています。その時は、教会に通う日本人たちも、彼らを助けます。今はクリスマスが近いので、隣りにあるスミレ幼稚園に通う子どもたちと教会に通う外国人の子どもたちが一緒になって歌を歌いました。練習の時から一緒に遊び回っている姿



は、とても良かった。今一番私たちが心配しているのは、子どもたちが大きくなってくると、共通の言葉が失われていって、親子が断絶してしまうことです。なんとかしなければいけないと話しています。

彼らは1週間、言葉もあまりわからない中で、本当に頑張って働いています。教会は、どこにでも同じようにあるので、言葉がわからなくても、勝手にわかります。一週間の終わりにようやくほっと落ち着ける、自分の心に近い場所です。

居場所のプロフィール

南林間にあるカトリック教会。外国人の信者も多く通う。外国語のミサも行われていて、月に1回ずつ、それぞれ(英語、スペイン語、ベトナム語、ポルトガル語、タガログ語)のコミュニティが日曜日の午後15時に集まりをもっている。

【住 所】大和市南林間7-4-1

こたえ

あかり食堂(野間 康彰さん)

「顔の見える関係と参加できる“すきま”」

長く高齢者介護の仕事に携わってきて、将来の介護職の姿に不安を感じるようになりました。ますます必要な仕事なのに、働く人がどんどん減っていく時代に直面し、自分たちや子ども達の未来をどう作っていったらいいのか……。とても大きな不安があります。

しかし、その中で「地域」というコミュニティに可能性を感じるようになりました。「ご近所さん・自治会・民生委員・子ども会・商店街などがお互いに『顔の見える関係』を築くことができれば、『助け合いながら生きる』事ができるんじゃないか」「安心して暮らしたい」というテーマは、どの世代でも共通なんじゃないか、そう考えるようになって、誰でも立ち寄る事が出来るコミュニティカフェ「あかり食堂」という形で一歩を踏み出しました。

カフェについては、子どもからお年寄りまで、みんなの居場所になるように工夫しています。お店ができて半年が経って、気がつくスタッフとお客さんが一緒にご飯を食べていたり、片付けや洗い物を手伝ってくれたり、食堂のお祭りの実行委員をお客さんにお願いすることもあります。

お客さんがお腹空いていたら、ランチの時間じゃなくてもお出ししたいけど、厨房のスタッフからすると仕込みの時間とかあるからそうそう応じられない。お客さんに合わせた対応は簡単なことじゃなくて、何回も何回も話し合っ、少しずつ解決しています。

預け先がなくて子どもを背負ってスタッフが働いている場面も。誰かの困りごとや悩みごとを、みんなのこととして柔軟に対応するようにも心がけています。そうしていく事でお客さんとスタッフの役割分担が曖昧にな



り、お客さんも参加しやすい場所になっていくような気がします。そんな関係を結ぶことが、お互いの居場所として機能していくことに繋がっていく。

最初からきっちりしたサービスや仕組みを用意するんじゃなくて、みんなが「参加」できる「すきま」がある事が居場所作りには必要なんじゃないかと感じています。

居場所のプロフィール

今年の6月に南林間にオープンしたコミュニティカフェ。コンセプトは「一杯のコーヒーから始まる町づくり コーヒー×介護×看護」。2016年6月に、70名以上のメンバーで「大和にコミュニティカフェを作る会」が発足。みんなのアイデアを元にコアのメンバーが、野間さんが勤めていた介護施設の運営会社にこの企画をプレゼンし実現。食堂の他に、訪問看護ステーション、訪問介護ステーションを併設している。

【営 業 時 間】月曜日～木曜日：午前11時～午後5時

金曜日・土曜日：午前11時～午後9時

【定 休 日】日曜日

【住 所】大和市南林間1-6-1 TBCビル八番館1階

【問い合わせ】046-272-5777

Hello everybody!

外国人市民
インタビュー

ネパール出身 チャウダリ シタラムさん
チャウダリ シリザナさん、チャウダリ ユイカちゃん

大和市に暮らすネパール人が急増しています。その傾向は日本全体でも同様です。多くは留学生やネパール料理店で働くコックたちです。コンビニや飲食店で働く彼らの姿を目にすることも本当に多くなりました。長く日本で働きたいと望む人たちがたくさんいます。今年の3月に生まれた娘に「ユイカ(結花)」ちゃんと名付けるほど日本に思入れを持っているチャウダリさんもまた、10年前に、そんな留学生の一人として来日しました。



経済学を学んでいた大学を卒業してすぐ、24歳のときに日本に来ました。その時のネパールには、学んだことを活かせる就職先がなかったからです。目標は、旅行会社を設立して、日本人にネパールの素晴らしい景観を紹介すること。4人兄弟の中で一番勉強が得意だったシタラムさんに、数ある留学先の中から日本をすすめてくれたのは、お母さんでした。平和な国で、人がやさしい。それがお母さんの持つ日本のイメージだったそうです。

最初は沖縄の日本語学校に入学しました。日本語は全くできなかったけれど、外国人も多くて住みやすい沖縄では、友だちもすぐにできて寂しさを感じる暇はありませんでした。初めてのアルバイトは建築資材を加工する工場。最初の1ヶ月の時給は400円。2ヶ月目からは500円になりました(ちなみに2007年の沖縄の最低賃金は618円)。2つ目のアルバイト先は、チラシ配り。中古車のチラシをマンションのポストや車のドアに差し込みます。不審者がいる、と警察に通報されて取り囲まれたときも、日本語でちゃんと説明ができなくて困りました。3か所目のアルバイト先は初めて自分で探し出した引越し屋さん。1年間の日本語学校での勉強が終わって、横浜にある情報システムの専門学校に入学するための、飛行機代を出してくれたのがこの社長さんでした。電車の走っていないネパール、そして沖縄から初めて横浜駅にたどり着いたときが、今までで一番不安な気持ちになったときです。

希望が丘にあるこの専門学校では、成績は一番。お弁当工場でアルバイトをしていた時には、深夜中働いて、眠い目をこすりながら勉強を頑張りました。横浜国立大学に編入したいという希望を持っていたからです。2年間の専門学校を卒業後、横浜国立大学の研究生として1年間通いましたが、入学することは叶わず、今度は大和にある専門学校へ。この頃長く続いたアルバイトはマクドナルド。渋谷のBunkamura店で働きました。時給は安いし忙しいし、大変なアルバイトだったけれど、好き

な時間に働けるので、ありがたいアルバイト先でした。もう一つ、ブルーノート東京という、ジャズクラブでもアルバイトをしました。ここでは、敬語やマナーなど、いまの生活でも役に立つ、大切なことをたくさん教えてもらいました。そのまま、そこでの就職を望んだけれど(先方も尽力してくれたけれど)、留学生のビザから、仕事をするためのビザへの切り替えができず(専門学校で勉強していることと、仕事内容に関わりがないから)、慌ててハローワークで仕事を探しました。見つけた会社は、お給料を20万円保証してくれた会社の営業。でも入ってみると、歩合に切り替えられてしまいます。3ヶ月たっても1つも契約が取れません。その間のお給料はなし。母国からお金を送ってもらってアパート代を支払いました。でもそんな生活をいつまでも続けることはできません。また、就職活動生活に逆戻りです。3回の面接をへてようやく認められた就職先が今勤めている会社です。インドやイタリア、キューバから食材を輸入したり、シンガポールに日本の食材を輸出したりしている会社で、主にインドからの食材の輸入を担当しています。通勤は電車を4回乗り換えて、片道2時間。会社で働いている外国人は自分ひとりです。2年前に結婚もしました。ネパールではまだまだお見合い結婚も多いです。お母さんの知りあいのお孫さんです。奥さんは、残業も多くて、なかなか帰ってこない自分に対して、なんにも言わないけれど、遊んでるんじゃないの?と疑っているかもしれないです。ネパールではこんな仕事の仕方はないからです。自分も仕事では、我慢していることもあるかもしれない。でも、同僚はすごくやさしくて、年上の女性たちには、日本での子育てのこと、なんでも質問しては教えてもらってます。奥さんが、最近仕事をはじめて、仕事に出かけるときは、自分が子どもの面倒を見ます。今日は、免許の書き換えの講習に、子どもを連れていきました。寝てくれたので良かったです。奥さんは、どうしてかわからないけど、日本での子育てのほうがネパールでの子育てより楽だと言います。いろいろ便利なものがあるから。ネパールにいた頃はスポーツが大好きだったけど、今は、家族とドライブをするのが気分転換です。江ノ島とか、海沿いの道を走るのが好きです。

ネパール人が今、日本に増えているのは、留学するのが簡単だからです。他の国では、成績が優秀でなければビザは取れませんが、日本は成績は関係ありません。たくさんのお金を払って、日本に来る人達もいます。アルバイトを沢山しなければ返せません。でもネパール人は、会社で働いたなら、仕事に対して真面目に取り組むし、人柄も穏やかです。

日本で頑張っている後輩たちが相談の電話をかけてくることもあります。力になりたいと思っています。



シタラムさんの
お話を聞いて、外
国人も安心して働
ける環境を整えて
いかないといいな
いと感じました。

TRAVEL SUPPORT Inc

トラベル サポート 海外正規割引航空券
ホテル・現地ガイドの手配もOK

TEL 046(204)7714 E-mail travel-support.h@gol.com



Buen Gusto (ブエン Gusto)



12月16日にオープンした、大和で一番新しいエスニックレストランをご紹介します。

「Buen(=素晴らしい) Gusto(=味)」という意味の名前を持つペルーの料理とスイーツのお店です。

この店のオーナーは、ペルーの首都リマ出身のイルデブランドさん。料理好きの妻、マリアさんと実に28年も前から夢見てきたお店です。



イルデブランドさんの4人のお姉さんは、それぞれペルーでレストランを経営しています。「自分もペルーに店を持ちたい。」そう思ってイルデブランドさんとマリアさんは、28年前にペルーから日本に

やってきました。平日はビスケット工場で、週末には清掃のアルバイトをして、コツコツとお金を貯めてきました。

3人の子どもにも恵まれました。日本で教育を受けた子どもたちが、これからはペルーではなく、日本に住みたい、と願ったので、住み慣れた大和でお店を開くことにしました。

お姉さんたちも「いま、世界中でペルー料理が人気だから、ぜひ、日本でもペルー料理の美味しさを広めてほしい」と応援してくれています。

こだわったのは、お店の雰囲気。真っ白な壁とやわらかい光は、いままでの大和にあるペルー料理屋さんとはちょっと違って、隠れ家風。日本人のお客さんが一人で来て、ゆっくりコーヒーとケーキを楽しんでもらえるようなお店を目指しているそうです。



住 所：大和市中央2-14-12
ホーユウコンフォルト
大和中央 1階
電 話：046-211-7321
営業時間：午前11時～午後10時
定 休 日：水曜日
駐 車 場：近くのコインパーキング
をお使いください。

もちろんペルー料理も楽しめますよ。

ロモ・サルタードは、牛肉とフライドポテト、玉ねぎ、トマトと炒めてご飯にかけたペルーでいちばん有名なお料理。フリホーレス・コン・セコは、豆のソースがかかったご飯の上に、コリアンダー(パクチー)で味付けをした、牛肉の塊がゴロンと2つ。フォークで切れるほど柔らかく煮込まれた肉に、酸味の効いた玉ねぎのマリネがよく合います。



ロモ・サルタード



フリホーレス・コン・セコ

カクテルもオススメしたい自慢のメニュー。

ピスコサワーは、ペルーのお酒、ぶどうの蒸留酒「ピスコ」を使ったペルー人が大好きなカクテルです。

レモンジュースと氷、卵白と砂糖を少し、ピスコと一緒にミキサーで混ぜて作ります。最後にシナモンパウダーを一振りすれば完成。卵白の作る泡がふわふわまるで、口当たりの良い爽やかなカクテルです。



ピスコサワー



二人には、お店を作るにあたってとても感謝している日本人が二人います。

一人は、マリアさんの日本語の先生の三澤さん。もう一人は不動産屋の傳田さんです。

三澤さんは、お店のインテリアから改装業者との交渉、レジの設定まで、本当にいろいろなことを手伝ってくれました。日本人に好まれるお店のアイデアをいろいろ出してくれたのも三澤さんです。

傳田さんは、保健所の手続きを手伝ってくれたり、税理士を紹介してくれたり、日本でお店を開くに当たっての様々なアドバイスをくれました。二人とも、困ったことがあって電話をすると、いつでも、嫌な顔ひとつせずに助けてくれます。そんなやさしい人達を引き寄せるのも、二人の人柄があつてのこと。それが雰囲気にもよく現れている素敵なお店です。

「いつも笑顔で皆さんをお迎えします」というのが二人からのメッセージ。皆さんもぜひ一度、足を運んでみてください。



イルデブランドさん・マリアさん

地域密着・顧客密着のクリエイティブ集団

SINCE 1885



似顔絵名刺で
集客! UP

会話の
きっかけに
なる

キャラクターで
売上! UP

一目で
イメージが
伝わる

デザイン

似顔絵
キャラクター

販促支援

印刷

広告

ホームページ



さん太くん

ご相談無料

株式
会社

さんこうどう

<http://www.sankodo.net>

0120・3510・13

こんな事業を開催しました

多文化共生防災訓練

2017年11月19日 日曜日
午前10時～午後3時

大和市立渋谷中学校



大和市と国際化協会では、2013年から2年にわたって開催した第3期多文化共生会議において災害時のネットワークづくりに取り組んだことを機に、1年に1度、災害時の外国人支援を目的とした防災訓練を開催しています。これまでは「災害多言語支援センター設置・運営訓練」という名称でしたが、4回目となる今回は「多文化共生防災訓練」と題し、災害対策を念頭に置いて、外国人と日本人が協力できる内容の訓練を行いました。国際化協会登録ボランティアやいちょう団地連合自治会の方など72名が参加しました。

講師にNPO法人多文化共生マネージャー全国協議会理事で、過去の震災現場で外国人支援の経験がある高橋伸行さんをお招きし、災害時に外国人が直面する課題やボランティアの役割

などについてお話をいただきました。グループワークではやさしい日本語とピクトグラム(絵文字)を使って避難所の掲示板づくりを行いました。

そうした支援者向け訓練とは別に外国人向けの訓練も実施し、災害救護赤十字奉仕団からAEDの救命処置訓練を行ったほか、危機管理課の職員から防災について学ぶ時間を設け、災害時には大和市で多言語支援センターを立ち上げることを参加者に伝えました。

午後からは外国人と日本人が合同でワークショップを行いました。内容は、市内でサルを目撃したという注意喚起の行政情報を外国人にも分かりやすいようにやさしい日本語とピクトグラムを使って伝えるもので、グループごとに模造紙にまとめました。

参加者から「外国人にも分かりやすいようにやさしい日本語にするのが意外とむずかしかった」「実際に外国人に確認しながら学べたことが良かった」「普段外国人と話す機会が少ないため、外国人と一緒にワークショップがとても良かった」といった意見がありました。みなさん、ありがとうございました。

※この訓練の実施にあたり、一般財団法人自治体国際化協会の地域国際化推進アドバイザー派遣制度を利用しました。

地球市民のための英会話講座

2017年9月1日から12月15日 金曜日
午前10時～11時30分 全15回

市役所第一分庁舎2階



これまで国際化協会では初級レベルの学習者を対象にプリント教材やテキストを使用した英会話講座を開催してきました。今回は、英語学習者が常に持つ「これは、どう言ったらいいんだろう?」といった疑問に答えてくれる講座を開催したいと考え、プロの通訳士、田中心一郎さんに講師をお願いしました。毎回、身近なトピックを取り上げ、受講生が思い思いの考えや意見を言い合う中で出される質問に、講師から明快な答えを提示いただき、非常に有意義な授業が行えたと感じました。受講生からは、毎回の授業を楽しみに参加されていた様子が伺えました。

日本語初級教室

第I期: 2017年4月27日～7月20日
第II期: 2017年9月14日～12月7日

各期 木曜日
午前10時～正午 12回

大和市勤労福祉会館



国際化協会では、にほんごの会企業組合に講師を依頼し、年度内に春と秋の2回、「日本語初級教室」を開催しました。当教室では、小さな子どもをもつ方のために保育サービスを併設し、落ち着いて日本語を学べる環境を提供しています。今回参加した生徒の出身国は、中国、ベトナム、ペルーなど10カ国にも及び、20から30代の若い年齢層が大半を占めました。会話を中心とした授業ですが、漢字や聞き取り練習なども取り入れ、話す、聞く、読む、書くの4技能を伸ばすプログラムは参加者に大変好評でした。国際化協会は、これからも学習者のニーズに即した日本語学習の場を提供していきます。

国際理解講座「北村浩子さんと読む世界文学」

第1回目
国境を越える物語

2017年12月10日 日曜日
午後1時30分～4時

生涯学習センター
610会議室



国際化協会では、「地域の国際化」について広く皆さんにご理解いただく目的で「国際理解講座」を開催しています。今年度は、より身近な切り口から、地域に暮らしている外国人市民のことについて知っていただきたいと、「本」をテーマに選び、書評家、日本語教師でもあり、アナウンサーとしてお勤めであったFMヨコハマで14年にわたり本の紹介コーナー「books A to Z」でナビゲーターを務めていらした北村浩子さんに講師をお願いしました。

ノーベル賞の授賞式もあったこの日は、ノーベル文学賞受賞作家カズオ・イシグロの作品の紹介から始まり、最近ニュースになったイスラエルやジンバブエの作家の作品、物語の内容に合わせて博物館まで実際に作ってしまったというトルコのノーベル文学賞作家が書いたダメ男のお話、クリスマスにピッタリのポーランドの作品など、あわせて7冊の「外国文学」をご紹介しました。

物語を通して自分の想像の及ばない世界がある事を知ることで、人と人との間にあるいろいろな垣根は越えていけるというメッセージに、参加者の皆さんからは今まで触れる機会のなかった外国文学に挑戦してみたい、との嬉しい感想をいただきました。

ピックアップ



「12人の蒐集家／ティーショップ」

ゾラン・ジヴコヴィッチ 著
山田順子 訳 東京創元社
旧ユーゴスラヴィア(セルビア)

紹介した本の中で一番読みやすいよ、と教えてくださったのが、ご自身も紹介しながら、思わず思い出して笑っちゃうほどぶつ飛んだコレクションについての「恐つ、ゾクつ、でもおもしろ」な12の物語「12人の蒐集家」と、列車を待つ婦人が、喫茶室で「物語のお茶」を頼むことで始まり、「めくるめくストーリーが、最後は魔法のように収束する」という「ティーショップ」の2つのお話が納められたこの本。気軽に挑戦していただけたらいいかな一冊ですよ。

地域の国際交流イベント案内

NPO法人教育支援グループ Ed.ベンチャー

外国人の子ども理解のための学習会

外国にルーツをもつ子どもたちの様子や抱える課題について基礎的な知識を身につけませんか？

日 時：2018年1月6日(土)・7日(日) 午前9時30分～午後4時

場 所：文化創造拠点シリウス6階 生涯学習センター612文化創造室

対 象：両日出席できる15歳以上の方 30名

主な内容：①外国人の子どもの生きにくさ ②当事者から見た外国人の子どもの生きにくさ ③教師が出会った外国人の子どもたち ④ルーツ別の子どもの抱える課題の違い ⑤外国にルーツをもつ子どもの言語獲得 ⑥アイデンティティ獲得の困難さなど

教育講演会〈この時代のわたしたちの〉未来への責任 — 憲法論議の先に見えるもの —

講 師：青井未帆氏(学習院大学教授 憲法学者)

日 時：2018年2月25日(日) 午後2時～5時

場 所：文化創造拠点シリウス6階 生涯学習センター601会議室

定 員：100名

参加費：一般：1,000円 学生：500円(高校生以下無料)

お申込み・問い合わせ：NPO法人教育支援グループEd.ベンチャー事務局
電話/FAX: 046-272-8980 toiwase@edventure.jp

やまと国際オペラ協会

フィデリオと第九

2015年に結成された、オーケストラを持ち、本格的なオペラの上演を目指す市民団体「やまと国際オペラ協会」。3回目の本公演ではベートーヴェンが作曲したたったひとつの歌劇「フィデリオ」と「交響曲第9番」を演奏します。

日 時：2018年1月21日(日) 午後3時開場 3時30分開演

場 所：文化創造拠点シリウス1階 メインホール

費 用：4,900円(自由席)

シリウス1階 ホール事務局

窓口販売(午前9時～午後8時) 046-259-7591

チケットぴあ Pコード342819 「フィデリオと第九」

0570-02-9999

詳細は、ホームページでご確認ください(<http://yioa.net/>)



やまと国際フレンドクラブ

やまとインターナショナルフェスタ2018 ～国際交流+more～

世界各国のスイーツとお茶を楽しみながら一緒に踊ったり、歌ったり、ゲームをしたりしていろいろな国の方と一緒に素敵な午後を過ごしましょう！

日 時：2018年2月10日(土・祝)

開場 午後1時30分 開演 午後2時～4時

場 所：IKOZA(渋谷学習センター)2階 多目的ホール

現在チケット好評販売中です

大人(中学生以上)：500円 小学生：300円 幼児：無料

お申込み・問い合わせ：やまと国際フレンドクラブ事務局
info@ifc-yamato.com または、
080-5451-0432(留守電)

大和市生涯学習センター

地域リーダー養成講座

「外国人のための日本語力～聞く力・伝える力アップ編」

日本語初級の勉強を修了した方を対象に、相手の話を正しく聞き取り、相手が納得できる伝え方を学ぶ講座です。将来的に、地域で活躍できるようになることを目指します。

日 時：2018年2月19日(月)～3月2日(金)までの

月曜日～金曜日 全10回 午前9時10分～正午

場 所：文化創造拠点シリウス6階 生涯学習センター

606小会議室(大和市大和南1丁目8番1号)

参加費：一般1,500円(初回に全額支払い、返金不可。途中参加希望の場合、応相談)

対 象：市内及び近郊在住の外国人市民(日本語初級修了程度)

定 員：15名(定員を超えた場合は抽選)

お申込み・問い合わせ：大和市生涯学習センター 046-261-0491
電話または生涯学習センター窓口へ直接お問い合わせください。

大和地区日中友好協会

民間レベルの地道な文化交流活動を通して日中友好の深化・拡大に努力している当協会への、市民の皆さまの日頃のご理解・ご支援に深く感謝申し上げます。2017年は、「日中国交正常化45周年」の佳節にふさわしく、当協会主催の2月の「春節の集い」は多くの市民も参加して64名の大盛会でしたし、9、10、11月に開催した「中国家庭料理講習」も毎回盛況でした。12月には公開シンポジウム「草の根活動の今後の展望」、「日本の中の中国」写真展も多くの参加者を得て好評でした。2018年は「日中平和友好条約40周年」を祝うべく、さらなる活動を期しています。

●当協会の年初のイベント紹介

◎1月20日(土)・2月17日(土) 11:00～12:30「日中談話会」
(市民活動センター)

市民の参加、大歓迎です。お気軽に「聊天」(フリートーク)しましょう。

◎3月4日(日) 11:00～14:00「水餃子で祝う春節の集い」
(文化創造拠点シリウス6階 生涯学習センター611調理室、他＝予定)

参加費500円。参加ご希望の方は事前にお申し込みください。

締切＝1月31日。

●当協会の2つの「中国語教室」

木曜(中級、9:00～10:30)、土曜(初級、13:00～14:30)の2クラスがあります。新年を期して新たな挑戦をしませんか。

(学費＝月3回2,500円)

申し込み・問い合わせ：事務局・鈴木 電話：080-5972-0368

NPO法人かながわ難民定住援助協会

はじめて学ぶ日本語講座

日本語初級の会話、読み書きを勉強したい人のための講座です。

日 時：2018年1月29日(月)～2月23日(金)

毎週月～金曜日 午前9時30分～11時30分(全19回)

場 所：かながわ難民定住援助協会事務局

(最寄り駅：小田急江ノ島線桜ヶ丘駅)

対 象：少し日本語が話せる人で、ひらがな・カタカナを読んだり、書いたりしたい人

定 員：先着8名

費 用：20,000円+教材費

主催・お申込み：

NPO法人かながわ難民定住援助協会 地域日本語支援プロジェクト

大和市上和田1773-2 エムオーハイム102

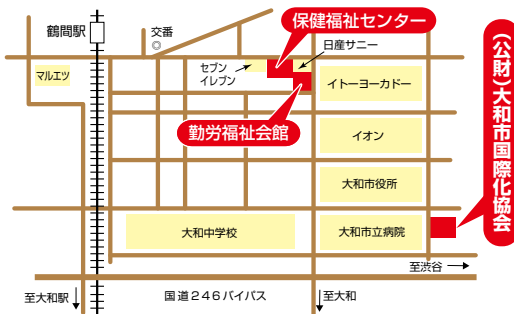
TEL/FAX: 046(268)2655 Email: nanmin@enjokyokai.org

公益財団法人 大和市国際化協会からのお知らせ

講座、イベントへの申し込み、お問い合わせは国際化協会事務局までお願いします。

■公益財団法人大和市国際化協会

〒242-0018 大和市深見西8-6-12
大和市役所分庁舎2階(大和市立病院の東側)
Tel:046-260-5126 Fax:046-260-5127
Email:pal@yamato-kokusai.or.jp
http://www.yamato-kokusai.or.jp
受付時間 月曜～金曜 第1、3土曜日
午前8時30分～午後5時



マークの見方

🕒	日時	📍	場所
👤	定員	💰	費用
👥	対象	📄	内容
👤	講師	📄	資格
📄	審査		
📄	お申し込み方法		

ボランティア交流会 日本語・学習支援セミナー

日頃、外国につながる子どもたちの支援をされている当協会の通訳翻訳、学習支援ボランティアを主な対象に、支援の際にボランティアが抱える課題を取り上げ、実践できる取り組みを学ぶセミナーです。

🕒 2018年2月24日(土) 午後2時から4時30分

📍 大和市保健福祉センター 4階講習室

📄 支援の際に課題になる次のような場合の生徒に対し、どのような手法で支援できるかを考えます。

- ①数の概念がない生徒 ②文章がかけない生徒 ③文字が覚えられない生徒
- ④集中力が続かない生徒 ⑤支援者の指示に従わない生徒 ⑥漢字が苦手な生徒

上記のほかにも、取り上げてほしい課題がありましたらお申し込みの際にお申し出ください。

👤 大和市放課後寺子屋やまと コーディネーター 元小学校教員 内藤 順子先生

👥 対象 国際化協会ボランティアおよび学習支援の活動に興味のある方 20名

📄 申込み 電話、Email、直接国際化協会の窓口でお申し込みください。先着順に受け付けます。



2018年4月1日から国際化協会が変わります!

1 場所が変わります

住所は、**大和市深見西1-3-17**

旧生涯学習センター跡地に残る、旧生涯学習センター北館の1階です。

アクセス: 小田急江ノ島線・相鉄線 大和駅 徒歩10分

駐車場はありませんので、お車で越しの際には敷地内にある有料駐車場をご利用ください。

2 開館時間と電話・ファックス番号が変わります

それとともなって、国際化協会の通訳サービスの時間も変更になります。開館時間・電話番号および通訳サービスの時間とその設置場所は、決まり次第、協会のホームページや機関誌「Pal」、広報やまと、Facebookなどでお知らせしていきますのでご確認ください。

メールアドレスは変わりません。(pal@yamato-kokusai.or.jp)

3 国際交流サロンができます

コンセプトは「外国人市民が自らの文化を大切に、あつまる場所」。このスペースは、情報と学びの機会が提供される、自立への力をつけるための場所でもあり、また、市民同士の自然な交流が生まれる拠点でもあります。詳しくは、次回のPalでまた改めてご案内します。

4つの中心となる事業

- ①日本語学習の場の提供 ②情報提供/通訳サービスの提供
- ③学習支援の場の提供 ④自然発生的交流の場の提供

